

学部アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

1 教育の理念・目的

上越教育大学は、21世紀の教育を担う中核的・指導的な教員の養成を目指しています。21世紀という時代に社会がどのように変化していくのかについては、様々なとらえ方が可能です。しかし、はっきりしているのはこれまで以上にあらゆる領域の変化が大きく、そして加速度的に速くなり、その変化に適切に対応することのできる能力の形成と個性の尊重が大きな社会的課題となっていく、ということではないでしょうか。そうした時代にあって、学校教育においても、これまでの知識や経験の枠組みでは十分に対応することが困難な課題や問題が生じてきています。

今、学校教育に求められているのは、様々な問題を的確に発見し、子ども一人ひとりの個性的な学びと生活に創造的に対応することができ、同時に、その解決を支援することのできる新しい形の指導力です。学校に、教員に、極めて高い専門性と自らを高める向上心が、今ほど求められているときはありません。

上越教育大学は、このような教員養成を使命として創設された新しい教育大学です。本学は、昭和53年の発足以来、若々しいエネルギーに満ちあふれ、大学院博士課程を備えたトップクラスの教員養成大学として成長しております。平成12年4月には更なる飛躍を目指して改革を行いました。この改革で、確かな実践的指導力を備えて、21世紀の教育の改善に寄与し、子どもの未来を切り開くことのできる人材を養成していきたいと、私たち上越教育大学は考えています。

本学の教育の理念・目的を理解した個性豊かな学生が多数入学し、恵まれた教育・研究環境の中でそれぞれの可能性を存分に追求しながら教職への夢を実現してほしいと願っています。

2 養成したい教員像

上越教育大学は、21世紀を担う教員像として、教育者としての使命感と教育愛に支えられた人間的な視野、更に深い学識と優れた技能に支えられた総合的な視野、この二つの視野を兼ね備えた教育の専門家を考えています。教員という職業は、豊かな人間性に支えられた専門職です。特にその専門性には、子どもたちの学習と生活を支援でき、そして人類の築き上げた文化を全体として理解・把握する、つまり、様々な学問分野の考え方を整理・統合し、人間の文化的営みを理解できる総合的な能力が求められています。

上越教育大学は、平成12年4月より着手した新たな教育課程によって、人間的な視野と総合的な視野に立った教育のスペシャリストを養成していきたいと考えています。

3 求める学生像

現在、初等中等教育、高等教育の改革が進行し、高等学校、大学それぞれの多様化、個性化が進みつつあります。それに伴って、個人の能力・適性、関心・意欲に応じた個性的、主体的な進路選択が強く求められています。

これからの入学者選抜では、「学生を絞り込む」のではなく、「求める学生を見いだす」ことが大学側に求められ、「大学から選ばれる」のではなく、「大学を主体的に選択する」ことが受験生側に求められています。

上越教育大学では、以下に示す入学者選抜方法によって、「この成績なら、この辺の大学に」という動機で入学する学生よりも、本学の教育の理念・目的を十分に理解し、教職への関心と意欲を持ち、協調性や人間性に優れ、積極的に学習を進めていくことのできる、個人的魅力のある学生を求めています。

<一般入試〔前期日程〕で求める学生像>

前期日程では、小論文と実技検査を課し、本学の教育課程に適合する資質を備えた学生を受け入れることを目指しています。そのために、この入試では次にあげるような能力と適性を評価します。

課題探求能力と表現能力に優れ、音楽・美術・体育の実技について基礎的な適性を有する学生

<一般入試〔後期日程〕で求める学生像>

後期日程では、主として大学入試センター試験の成績に基づいて選抜を行います。この入試では、次にあげるような学力を有し、本学を「入学したい大学」として積極的に選択する学生を求めています。

バランスのとれた、より高い基礎学力を有する学生

<推薦入試で求める学生像>

推薦入試では、面接を全員に課し、一般入試でははかりきれない、次にあげるような魅力のある学生を受け入れることを目指しています。

教員を目指すための明確なビジョンを持ち、それを実現するために継続して努力していける学生

大学院アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

今日、教員には、教科に関する専門的学力はもちろんのこと、教育者としての使命感、人間愛に支えられた広い一般教養、教育の理念・方法及び人間の成長や発達についての深い理解、優れた教育技術など専門職としての高度な資質能力が求められています。本学大学院は、これらの要請に応えるため、初等中等教育の実践にかかわる高度な総合的・専門的研究能力を育成し、学校教育の場における教育研究の推進者を養成することをねらいとしています。

大学院学校教育研究科修士課程及び専門職学位課程（教職大学院）の「アドミッション・ポリシー」は、次のとおりです。

(1) 修士課程

① 学校教育専攻

学校教育専攻は、臨床的視点から幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における教育に関する理論と応用を教授研究し、広い視野に立つ精深な学識を授け、教育にたずさわる者の使命と熱意に応え、その研究研鑽を推進するとともに、初等中等教育の場において教育研究を創造的に推し進めることのできる能力を備えた有為の教育者を養成することを目的とします。

〈学校臨床研究コース〉

学校臨床研究コースは、教科の授業にとどまらず学校教育全般を幅広く研究対象とし、児童生徒の学習促進と人間形成の両面にわたって、実際に学校で起こっていることと当事者の視点を大切にしながら、実践的支援に資する臨床研究をめざします。実践的な知識・技能だけでなく、その理論的背景の検討や再構築も行いながら、新たな教育活動を構想し推進できる能力の育成を目標としています。所属院生は、「学習臨床研究」、「生徒指導総合」、「学校心理」の各科目群のいずれかを中心として学びながら、各自の研究課題を追究し修士論文の作成をめざしていきます。

「学習臨床研究」は、教師が児童・生徒の学習場面に臨みながら、広い視野に立って学校教育の諸課題をとらえ、児童・生徒一人ひとりが自己を確立し、それぞれのよさを表現することのできる教育活動を展開することを重視しています。そのため、学校教育における各教科等の枠組みを超えて、教育方法、学習過程、情報教育及び総合学習の領域から児童・生徒の学習の問題に臨床的にアプローチし、その解決に向かう教育活動を創造的に推進することのできる能力の育成を目標としています。

「学習臨床研究」は、教員としての資質能力の向上を志向する現職教員や、教職を志望する者で、特に児童・生徒の学習の問題に関心を持ち、臨床的に研究する意欲を有する人を求めています。

「生徒指導総合」は、いじめ、不登校、学ぶ意欲の喪失、教育格差、家庭・地域社会の変貌などの学校教育内外の今日的課題について、深く的確に理解する眼を育むとともに、個々のケースに専門的に対応できる能力や、適切な指導プログラムと経営戦略を通してこれからの学校教育をリードしていく豊かな能力の育成を目標としています。

「生徒指導総合」は、これまでの教職経験を踏まえ更なる職能発達をめざす現職教員や、これから教員・研究者を志望する学生や社会人など、「常識」ととらわれない柔軟な思考力を持って、教育の諸課題について教育学の視点から深く追究したい人を求めています。

「学校心理」では、学校や家庭における子どもたちの多様な「心と行動の現象」を心理学の視点から総合的に理解するとともに、子どもたちの発達と学習を適切に援助していくための理論と方法を追究しています。その中で、問題を抱える子どもへの援助だけでなく、日常の学習指導や生活指導・学級経営など学校教育の様々な領域で力を発揮できる能力の育成をめざしています。

「学校心理」は、教職経験をふまえ更なる職能発達をめざす現職教員や、これから教員・研究者を志望する学生や社会人など、教育の諸課題を心理学的視点から深く追求したいという意欲をもち、自身の問題意識について自ら考え探究する力のある人を求めています。

〈臨床心理学コース〉

臨床心理学コースは、臨床心理士養成を目的としており、心理臨床家としての倫理観をはじめとする豊かな人間性と、生涯にわたる知識と技能の研鑽の礎となる探究心・向上心を育むとともに、教育をはじめ、医療、福祉、司法、産業など様々な分野での臨床実践を理論構築へと高めうる科学的・研究的態度を備えた人材の養成を目標としています。

本コースは、来談者の人権を無条件に尊重でき、専門家としての知識と技能を人々の福祉の増進に用いることができるように、自らの心身を健全に保つよう努めるとともに、共感性、感受性、伝える能力、及び生涯にわたる知識と技能の研鑽に努めようとする探究心・向上心に溢れた人を求めています。

〈幼児教育コース〉

幼い子どもの教育現場は、子ども観の変化や指導観の多様化、家庭教育機能の低下をはじめ、様々な課題に直面しています。

幼児教育コースは、そうした状況と子どもたちの実態を確実にとらえる研究者や、子どもたちの能力や個性に応じた専門的な知識と実践的な指導力を持つ教員の養成を目標としています。そのために、幼児教育学、幼児心理学、保育内容研究の研究を専門とする教員が連携しながら研究・教育の充実に努めています。

本コースは、①幼児教育学、幼児心理学、保育内容研究のいずれかについて基本的知識を持ち、さらに専門的研究を深めたい人、②教職経験を持ち、専門的に研究することによってさらに実践力を高めたい人、③幼い子どもたちの成長に関わることにやりがいと使命感を感じることが出来る人を求めています。

〈特別支援教育コース〉

特別支援教育コースは、障害のある幼児・児童・生徒の教育的ニーズに応じて適切な指導と必要な支援を行うことができるように、なかでも実践的な臨床指導を重視し、教育の現場で直接活かすことができる実践的指導力を身につけた専門的教員の養成を目標としています。

本コースは、①特別支援教育を創造的に推進していこうとする意欲のある人、②特別支援教育に関する様々な課題に主体的に取り組もうとする人、③障害のある幼児・児童・生徒の成長発達にかかわる教職にやりがいと使命感を持てる人、④特別支援教育に関する高度な専門的知識と実践的指導力を身につけようとする人、そして、⑤教育・医療・福祉・労働等に関わる人々との連携・協力を図っていこうとする人を求めています。

② 教科・領域教育専攻

教科・領域教育専攻は、教科教育の多様な視点から学校教育に関する理論と応用を教授研究し、広い視野に立つ精深な学識を授け、教育にたずさわる者の使命と熱意に応え、その研究研鑽を推進するとともに、初等中等教育の場において教育研究を創造的に推し進めることのできる能力を備えた有為の教育者を養成することを目的とします。

〈言語系コース〉

言語系コースは、言語の本質と機能、言語表現、言語芸術に関する総合的研究を基盤に、言語・文学及び言語系教科教育に関する専門的な研究・教育を行い、広い視野と深い学識の上に、教科専門性と実践的スキルを合わせ持ち、一人ひとりの学習に対応できる創意溢れる実践力を持った教員の養成を目標としています。

本コースは「国語」と「英語」の科目群からなり、教科教育の内容と方法に多様な視点を提供します。「国語」の科目群は、国語学、国文学、書写書道、国語科教育の各領域によって構成され、「英語」の科目群は、英語学、英米文学、英語科教育、小学校英語教育の各領域によって構成されています。本コースは、各教科領域の専門的な理論と方法の体得を通して言語を統合的にとらえる実践力を培い、教育研究を創造的に造り上げようとする、意欲的・積極的な人を求めています。

〈社会系コース〉

社会系コースは、社会科教育学、社会科に関する人文科学、社会科学、自然科学の諸領域について総合的・専門的な教育・研究能力を備えた教員の養成を目標としています。

本コースは、①社会認識の歴史の変遷の跡をたどることができ、②社会構造を明らかにすることができ、③地域認識を深めることができ、④これらの成果を教育実践に有機的に関連づけることができ、そして、⑤専門性と学際性に留意し、地域社会と国際社会に寄与することができる能力を備えた教員を養成します。

本コースは、このような教員を目指そうとする志を有する人を求めています。

〈自然系コース〉

自然系コースは、歴史的発展を踏まえた科学観、自然や数理の原理・法則に関する深い知識を習得し、教育現場において児童・生徒に自然科学のおもしろさと感動を教えることのできる能力を養成することを目標としています。

本コースは、「数学」と「理科」の科目群で構成されており、数・図形等の性質を帰納的に導き、証明を通して演繹的に理解することや、実験や観察を通して自然の法則を導くことにより、自然科学に関する理論と方法を探求して、自然科学の進歩に役に立つ精深な学識を養います。また、教育実践の場における教育研究を創造的に推進することのできる能力を備えた教員や、教育現場や職場で生じる様々な問題を冷静かつ理論的に反省し、それらの問題に対して十分な実践力と豊かな独創性をもって改善を図ることができる資質の高い教員を養成します。

本コースは、このような教員を目指そうとする意欲のある人を求めています。

〈芸術系コース〉

芸術系コースは、言葉を超えたコミュニケーション手段である音楽と美術について理論、実践の両面から究めるとともに、芸術によって育まれる豊かな感性を持つ意欲的な人材を養成することを目標としています。

「音楽」の科目群は、音楽教育に関する専門の学芸を教授研究し、人間と音楽との関わりにおいて広く豊かな知識を授けるとともに、音楽教育実践の場において優れた指導力を備えた人材を養成することを目標としています。そのために、声楽、器楽、作曲、音楽学及び音楽科教育の面から、音楽上の技術及び表現力を高めるとともに、社会や文化を背景として成立した音楽としての理解と鑑賞力を育てています。

「音楽」は、音楽の持つ力で日本の教育を変えてみたいと考える人を求めています。

「美術」の科目群は、絵画、彫刻、デザイン及び工芸などの美術制作領域と美術科教育学、美術史・美術理論の専門領域を通して、人間と美術の関わりについて研究しながら、美術教育の実践の場において優れた指導力を備えた人材の育成を目標としています。

「美術」は、将来、学校現場をはじめとする様々な分野で活躍しようとする意欲的な人を求めています。

〈生活・健康系コース〉

生活・健康系コースは、人間が健やかに生活を営む上で必要な理論や実践について、幅広く教授研究し、生活や健康に関連する教育や指導の研究を創造的に推進できる能力を備えた教員や関連する機関でリーダー的役割を担い得る教員を養成することを目標としています。

「保健体育」の科目群は、健康や体育・スポーツを取り巻く今日的諸課題に臨動的に対応できるより高度な専門性と、子どもたちの明るい未来の構築のために柔軟に対応できる実践的指導力、創造的な教育・研究に取り組む力量を持った指導的役割を担い得る教員や健康、体育・スポーツ関連諸機関の指導者を養成することを目標としています。

「保健体育」は、健康や体育・スポーツに関連する諸科学における理論と実践に関して強い興味と関心を持ち、研究を積極的に推進する意欲と実行力を備え、自らの学識・見識を高める意欲のある人を求めています。

「技術」の科目群は、材料加工学、電気・電子工学、機械工学、情報工学、栽培学及び技術科教育学の6つを柱とし、専門知識と広い視野を持ち実践力のある教員の養成を目標としています。

「技術」は、ものづくり教育が人間形成に果たす役割に関心があり、技術創造立国であるわが国の技術科教育の発展を担おうとする人を求めています。

「家庭」の科目群は、家庭科教育学、生活経営学、食物学、被服学、児童学、及び住居学の6つの専門分野で構成されており、家庭生活を中心とした人間の生活を総合的にとらえた上で、暮らしの充実・向上を図る実践的能力を養うことを目標としています。そのため、生まれてから死ぬまでの人間の発達、及び人間の生活を支える科学、さらにこの両者を結びつける生活の経営の視点から、生活者に関わるさまざまな現象を教育・研究の対象としています。

「家庭」は、自然・社会・人文科学における幅広い素養を有し、これからの家庭科教育の発展や、家庭科に関わる専門的な研究について真剣に取り組む人を求めています。

「学校ヘルスケア」の科目群は、学校における健康に関連する諸科学を統合した教育・研究を通じて、広い視野に立った学識を備えた人材や教育実践を創造的に推進できる人材を養成することを目標としています。

「学校ヘルスケア」は、学校における健康に関連する科学と教育実践に強い興味と関心を持ち、自らの学識・見識を高め積極的に研究を推進する意欲と実行力を備えている人を求めています。

(2) 専門職学位課程（教職大学院）

教育実践高度化専攻

教育実践高度化専攻は、多種多様な実践例に学びながら、自らも教育実践を行うことを通して、刻々と変わる教育現場の状況を即時的・総合的に判断しながら、適切な学校運営の実現に向けた協働関係を構築し、実践できる教員を養成することを目的とします。

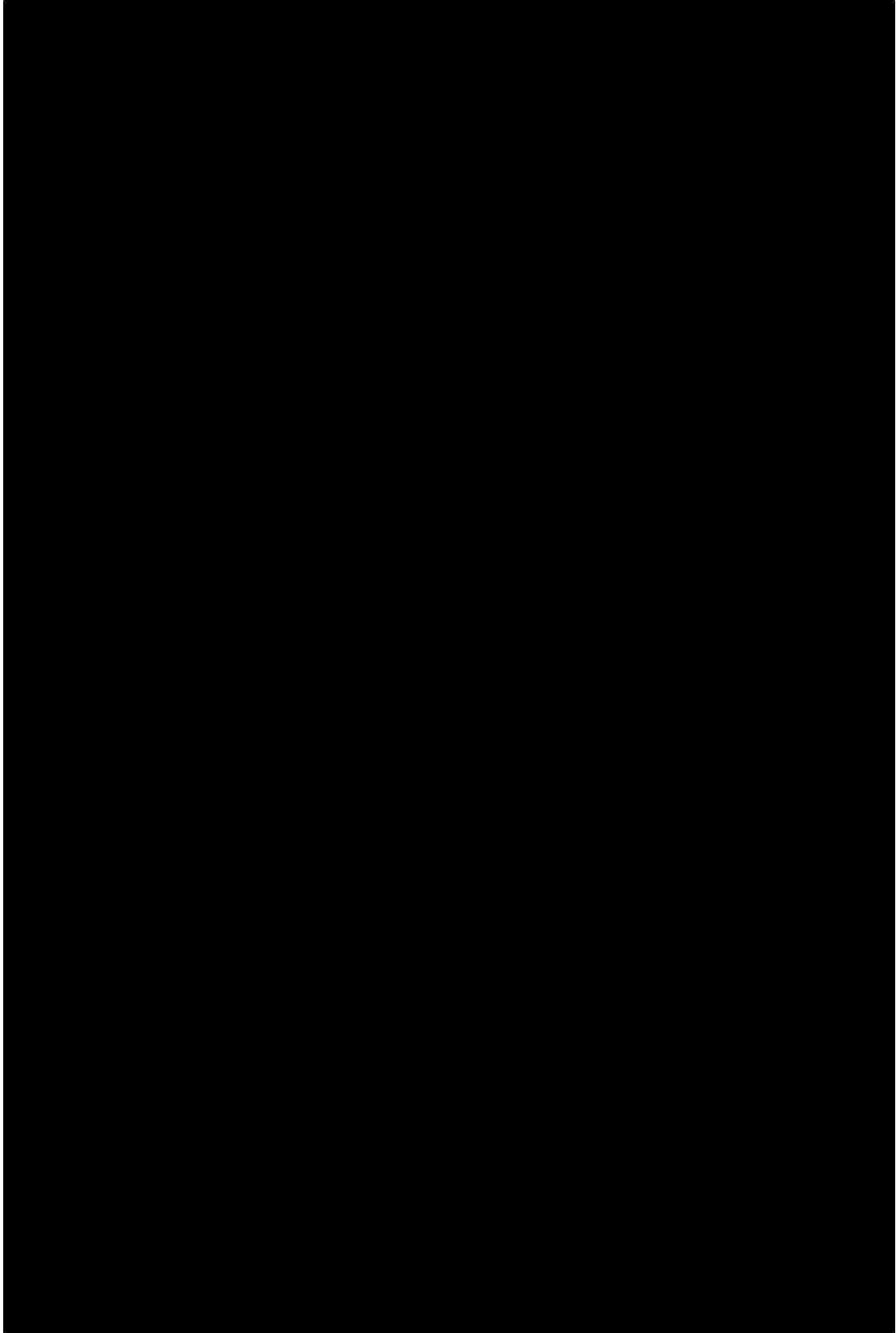
本専攻は、教育実践リーダーコースと学校運営リーダーコースによって構成されています。

「教育実践」とは、狭く教科学習だけでなく、進路指導、教育相談、生徒指導等をも含む広義のものです。これらは、どれも学校を成り立たせている不可欠な要素です。このため、教育実践リーダーコースでは、教科学習と教科外学習の内容領域を包含するカリキュラム構成としています。また、学習指導と生徒指導の内容領域を有機的に連携し、大学院学生が幅広く学び合える環境、並びに、学部教育と連携し学部学生と互いに学び合える環境の構築に配慮しています。

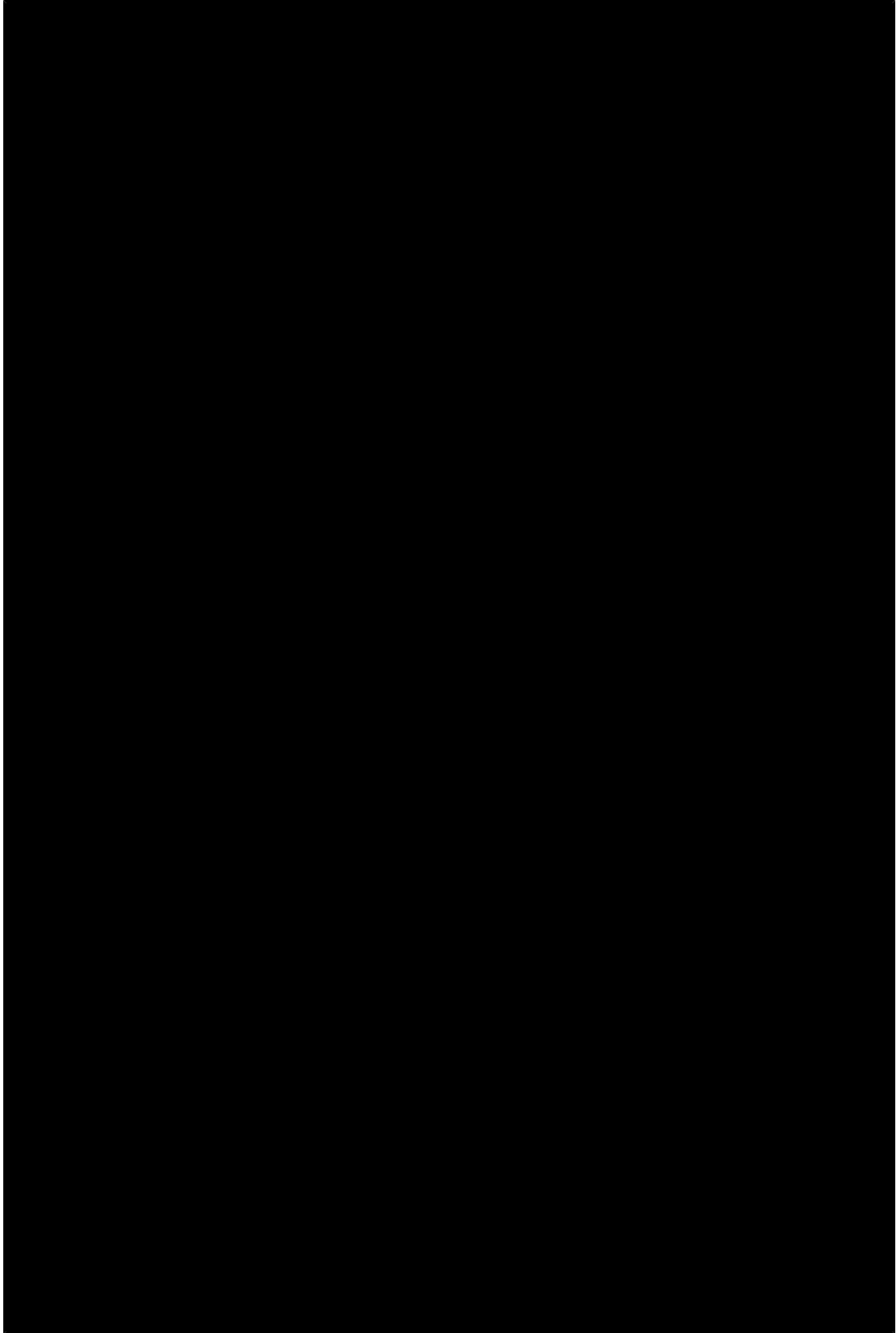
「学校運営」とは、管理職によって担われる狭義のものではなく、教務主任や生徒指導主事をはじめとするミドルリーダーが協働して行うものを広く包含しているものです。このため、学校運営リーダーコースでは、教員の能力・関心に応じた二つの内容領域（教育課程・教務領域と学年・組織運営領域）を想定して、リーダーに求められる資質能力の向上を図ることをめざしています。

本専攻は、教職経験を踏まえ更なる職能発達をめざす現職教員に加え、学部段階で教員としての基礎的・基本的な資質能力を身に付け、高い専門性と実践力を持った初等中等教育教員になることを強く志向する人を求めています。

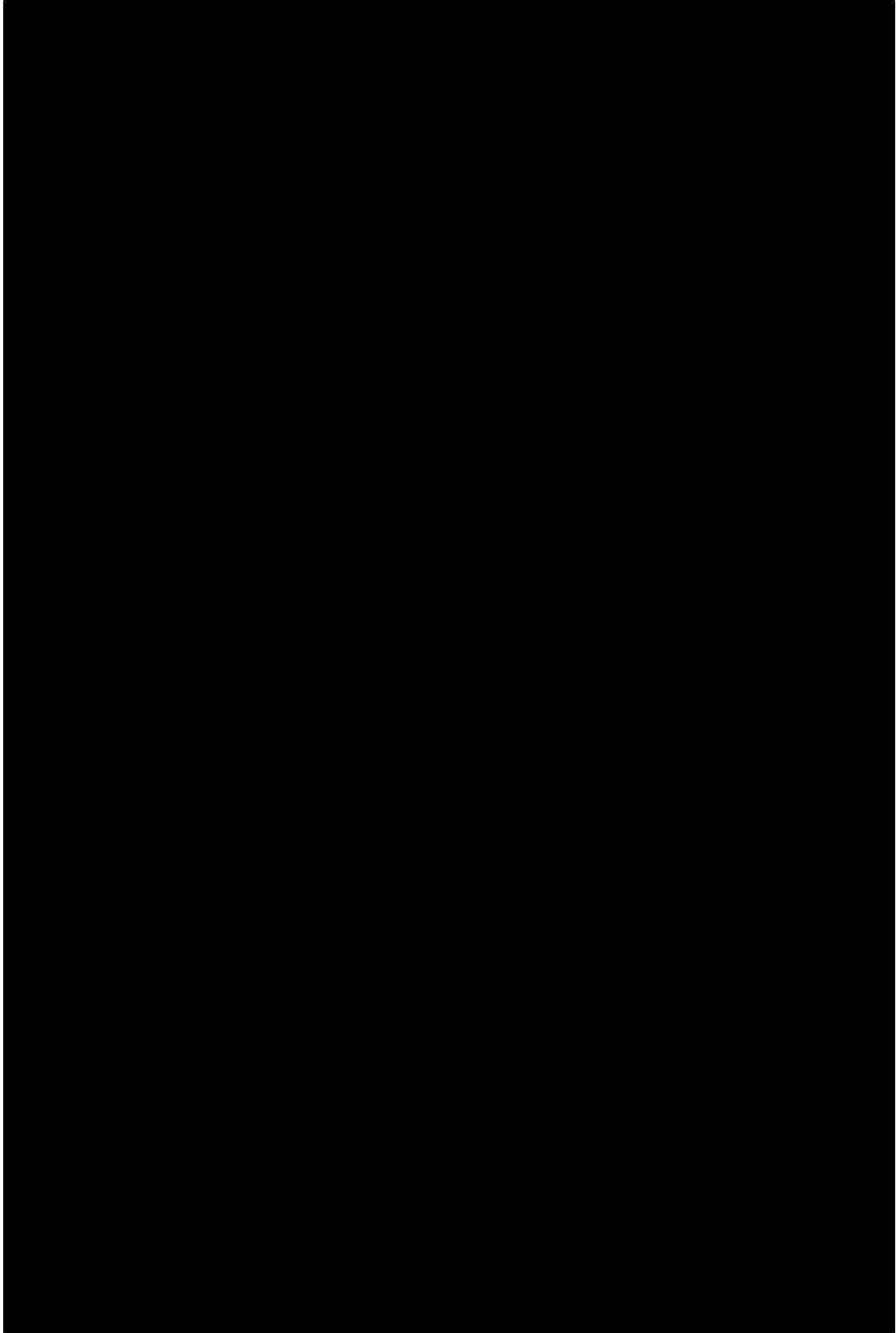
公開不可資料



公開不可資料



公開不可資料



公開不可資料

